

第2号様式（第12条関係）

令和3年度第2回大和市街づくり推進会議 会議要旨

- 1 日時 令和3年10月26日（火） 10時00分から11時40分まで
- 2 場所 大和市文化創造拠点シリウス 大和市生涯学習センター 601講習室
- 3 出席者 7名
- 4 傍聴人数 0名
- 5 議題
  - (1)第21回大和市街づくり賞について
  - (2)屋外広告物に関する事項について

その他

- ・ウェブ会議システムを利用した会議の開催について

会議資料

- ① 次第
- ② 資料1-1 第21回大和市街づくり賞について
- ③ 資料1-2 第21回大和市街づくり賞募集パンフレット・応募用紙
- ④ 資料2-1 屋外広告物に関する事項について
- ⑤ 資料2-2 大和市違反屋外広告物除却協力員制度実施要綱新旧対照表
- ⑥ 資料2-3 大和市違反屋外広告物除却協力員制度実施要綱（溶け込み）
- ⑦ 資料3-1 街づくり推進会議のウェブ会議システム利用に関する事項について（案）
- ⑧ 資料3-2 大和市街づくり推進会議のウェブ会議システムを利用した会議の開催に関する要領（案）
- ⑨ 資料3-3 大和市街づくり推進会議のウェブ会議システムを利用した会議の開催に関する要領（案）～解釈基準（案）～

## ■令和3年度 第2回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 令和3年度 第2回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 令和3年10月26日(火)10時00分から11時40分

[開催場所]大和市文化創造拠点シリウス 大和市生涯学習センター 601講習室

[出席委員] 7名(欠席:3名)

[出席] 杉崎 和久/ホーテス シュテファン/三浦 由理/江村 郁子/須賀 良二/山田 俊明/  
星野 澄佳

[欠席] 黒石 いずみ/河村 奨/大峰 英一

[事務局] 7名(街づくり施設部長、街づくり推進課長、街づくり推進係5名)

[担当課] 街づくり施設部 街づくり推進課 TEL.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

---

### I. 会議次第

---

#### 1. 開会

#### 2. 議題

- (1)第21回大和市街づくり賞について
- (2)屋外広告物に関する事項について

#### 3. その他

- ・ウェブ会議システムを利用した会議の開催について

#### 4. 閉会

### II. 内容

---

#### 1. 開会

#### 2. 議題

- (1)第21回大和市街づくり賞について

事務局より、「第21回大和市街づくり賞について」を説明。

質疑応答(○・・・委員 ▼・・・市)

- 
- 今日の議論を踏まえて11月に開催概要を決定としているが、おそらくこれから様々な意見が出るのが想定され、事務局にお任せということにはならないと思う。決めるというよりは質問や提案がたくさん出てくると思

うが、メールで構わないので、事務局からこのように整理をした、というやり取りを入れてほしい。この前提の上で、様々な立場から五月雨式で構わないので、議論していただきたい。

- これまでの街づくり賞では、どれくらいの応募があったのか。
- ▼ 直近で行った平成 29 年度の第 20 回では、20 件程度の応募があった。その前の平成 27 年度の第 19 回も同程度の応募数であった。ともに、委員の皆様には、全て現地へ赴いた上で選考いただいた。
- その応募数は、事務局としては多いと認識しているのか。それとももう少し応募してほしいと考えているのか。
- ▼ 全て現地に赴いた上で選考をする場合には、ちょうど良いと考えているが、もう少し応募があれば現地へ赴くかどうかという、前段階での整理ができるのではないかと考えている。
- 応募のあった場所は、ある程度、特定の地域に集中していると考えているか。それとも分散していると考えているか。
- ▼ 市内に点在している状況と考えている。
- 募集の情報は全ての地域に伝わっていると考えているか。
- ▼ そのように考えている。
- これまでの概要やテーマ、受賞事例などを紹介してもらった上で、今回のテーマである「居場所」について簡単に説明してもらいたい。
- ▼ 前回までの街づくり賞では、活動部門と事例部門の 2 部門について、地域の街づくり活動や街づくりの美しい事例を募集してきた。これまではテーマを特に設けず、地域にある魅力的な活動や事例を募集の対象としてきたが、単に「街づくり」というと幅が広く、ぼんやりとしてしまうので、今回はテーマを設定して募集することとした。
- 「居場所」というテーマを設定することにより、今までと切り口が変わってくるのでどういった反応があるか、という部分と、前の任期の街づくり推進会議を引き継いで「居場所とは何か？」という議論がここでは出てくることになるだろう。
- ▼ これまでは景観に関連する事例や、それに伴った市民の皆さんの活動という 2 部門で、良好な景観を写真で応募していただくことが多かった。この街づくり賞自体は景観形成の施策に基づいている。今回初めて抽象的ではあるが「居場所」というテーマを定めることとした。「居場所」といっても、物理的な場所もあれば、居心地の良い時間などもあり、いろいろなものを含めて、都市計画マスタープランでも「居場所」に言及している。したがって、「居場所」を市民の皆さんがどうとらえるかという問題はあるが、いろいろな応募があるものと考えている。
- 前回の選考の際には、午前と午後で北から南まで点在している応募事例を見に行ったので、大和市全体から応募があったものと認識している。応募事例の中には、個人のものから法人・団体のものまで幅広く、個人のものであればきれいな庭園であったり、法人の場合には建物であったりした。建物の場合もただ外観がきれいというだけではなく、内部の営みまで整えられているものがあり、幅広く応募があったと記憶している。参加者への記念品(ヤマトグッズ)のところについて、抽選となっているがこれはどういう意味か。
- ▼ 賞に応募してくださった方の中から抽選して記念品を差し上げるという意味だ。分かりやすい表記に改める。
- 抽選にするのではなく、応募者全員に 1 本 100 円くらいのボールペンなどを授与すれば良いのではないか。過去の例を見ても驚くほど応募があるとは考えにくい。
- ▼ 過去にボールペンを作ったことがあるが、比較的高価であった。数が多ければ 1 本当たりの単価は安くなる。
- 市の財政がひっくり返るほど高いわけではないのだから、全員に配布することを検討してほしい。

- ▼ 承知した。
- 記念品は応募する動機にならないだろうが、本当に抽選が良いかどうかは検討してほしい。
- ▼ 販売中のもので一番安価なものは、300 円である。
- 100 人から応募があったとしても、30,000 円だ。それなら安い。
- ▼ 応募者全員ということで検討する。
- 選考の視点も含めて、応募する側が何を応募すればいいのかイメージできるかどうかが課題だろう。趣味の集まりやサークル活動など、場所だけでなく活動も含めて「居場所」とするということであれば、単なる趣味の活動だけでは不十分だろう。
- 募集期間中に SNS を利用した広報周知で、ヤマトンが居心地の良い場所を紹介するような投稿が、どんなものを応募したら良いかの参考になるだろう。ヤマトンはどんなところを紹介するイメージを持っているのか。
- ▼ ヤマトンは泉の森で生まれたので、「ここが僕の居場所だよ」と泉の森で言っているような形で発信していきたいと考えている。
- それでは、ヤマトンは活動ではなく場所について発信をするということになるのか。
- ▼ おっしゃるとおりだ。
- 親水空間のような例を挙げると、そういった応募ばかりに偏ってしまう可能性があるため、そのあたりのバランスを取らなければならない。一方で、民間の方が運営しているようなコミュニティカフェなども「居場所」に含まれるとして、そのような場所を SNS で発信すると推薦をしているようにとられてしまう恐れがある。
- 全国で同様の賞の審査員をやっているが、どれだけ最初に募集要項を練っていても、応募者はそれぞれの解釈の中で応募してくるので、細かく詰めてもなかなか思う通りにはいかないだろう。ただ、先ほどあったように、バイアスがかかるような情報は発信しない方が良いでしょう。
- 大和市の街づくり賞が今回、21 回目を迎えるという継続性に驚く。これほど長い間、同じ賞を続けているところはあまりない。これまでの街づくり賞がどのように積み重なっているのかが興味深く感じる。20 回分の受賞事例をまとめたものや、大和の街の中に、こういったところが街づくり賞を受賞しましたといったマップがあるといった、単なる一過性のイベントではなく、大和の街づくりにどう貢献しているのかを示すようなものはあるか。また、それぞれの時代によって、賞のターゲットやテーマは変わってくると思うが、今であればコロナ禍でなかなかコミュニケーションが取れないから「居場所」がテーマとなるし、来年であればウィズ・コロナで違うテーマが出てくると思うので、時代ごとに大和の街づくりの賞が決まってきたということが積層して一つの形になるということが意味あることではないかと思う。今回の募集パンフレットについては、「今まで皆さんのご参加で大和の街がこんなに変わってきました」という文言が 2~3 行あって、その上で「あなたも 21 回目に参加しませんか？」というものがあっていいのではないか。
- 事務局からこの賞のこれまでの蓄積など、説明してもらいたい。今までの事例の整理をマップにまとめることや、過去の受賞事例の中からもう一度選ぶといったことは、これまでもしてきたものと認識している。
- ▼ 今、ご説明いただいたとおりで、それに加えて、市ホームページで過去の受賞事例を見ていただけるようにしている。また、過去の受賞事例を街づくりサポーターとともに巡るということを行い、前回は市北部に所在する事例を回った。
- 例えば冒頭に、どの地域にいくつの受賞事例があるかなどが掲載され、その上で応募を訴えかけるようなものがあれば、「大和にこんな場所があるんだ」と感じてもらえ、応募者に「自分もその中に加わっていきたい」と思ってもらえる意識の醸成が重要なのではないか。

- 具体的に今まで 20 回分の受賞事例を見ることができる場所をパンフレットに記載することを検討してほしい。また、20 年間での受賞事例の件数などの積み重ねが分かる文章を入れておくとも良いだろう。
- 歴史ある賞だということが伝わるようにしてほしい。
- 手元に「大和市街づくり賞受賞事例一覧」というものがあるが、ここで第 1 回から第 20 回までの受賞事例を紹介している。こういったものも見られるようにしたら良い。過去の受賞事例を見てみると、あまりテーマにとられていないように見える。
- 今回は「居場所」がテーマだからこれまでと切り口が違って、ざっくりといえば、見た目の空間の魅力だけではなく、そこに何らかの人の活動が見えることが求められているのだと思う。そうだとすると、選考の基準がこれまでのものと違うから、これまでに受賞したものがまた受賞しても良いのか。私は良いと思う。前は緑がきれいで選ばれたが、今回は地域の人たちの活動の拠点や活動できる空間になっているということであれば、過去の受賞事例でも応募可能であることを明記すべきだ。逆にもし過去受賞事例が今回は対象外であれば、除外することを書いた方が良い。
- 前回の選考の様子を考えると、やはり景観がきれいというだけで選んでいるわけではなくて、そこに人の活動がみられるから選ぶということがあった。単純にきれいだから、というだけではなかった。
- それは選考委員の力量が必要だろう。
- 事業者が地域に配慮して素敵な空間を作るというのがあるが、今回は若干絞り込むのではないか。地域貢献的に周囲に配慮して作ったものがこれまでの受賞事例にも入っているが、そこに次の活動が組み込まれているかがより重視されるのではないか。
- 以前だと建物や景観が良いという理由で表彰したが、今回はその中で「居場所」となるような活動をしていないければだめだということになる。
- 大和市は市民活動が盛んで、わざわざ入ってくる方もいるというベースもある。
- 空き家活用をして、そこに地域の人たちが集まって、ということもあり得る。
- 少し気になっていたのが、趣味・サークル活動だとベースの生活が整っている方が文化的に活動される空間というイメージがあるが、活動の拠点となると、もっと様々な活動があって、例えば今回の場合は子ども食堂も対象になるのではないか。また、室内なのか室外なのかがつかみづらかったため、図書館で日本建築学会編『まちの居場所』という本を借りてきて、その中のキーワードを見てみると図書館などが挙げられていた。図書館はまさに街の居場所として使われている印象があって、そういったものは、パンフレットにある文言の中からはイメージが付きづらいと思った。空間の作り方という部分で、椅子の配置だったり家具の配置だったり、「居やすい雰囲気」があるようだ。建築学会のものなので、そういったことをスタディしているのだが、「居やすい場所」というのが伝わるようなものが必要なのだと思う。農園も人が集うかもしれないし、福祉に絡んだもの、例えば障がい者の方とそうでない方が一緒にいられるといったこともあるかもしれない。障がいがある人や生活が苦しい人も一緒にいられる空間も「居場所」として考えたい。
- 選考の視点に書くかは別として、そういった幅があることは伝えた方が良いだろう。場所と活動がセットならば分かりやすいが、例えば、ある公園や緑地で週何回か「冒険遊び場」のような活動を行っているというのは、場所ではなく、活動に焦点を当てたものだろう。だが、家の一室を開放して活動しているといったようなものは、場所を開いていることが対象になっている。とはいえ、先ほど指摘があったように、応募する人がどのように解釈するかの問題でもある。
- 引っかけたのは、「居場所」という言葉と「居心地が良い場所」というのはイコールではないということで、そ

の部分で誤解されなければ良いと思う。子ども食堂などは、避難所やシェルターのような場所で、「居場所」ではあるが、ちょっとゆとりがあって文化的に過ごす「居心地の良い場所」とは違う。そういった場所まで汲み上げたいと思うと、代替案は出せないのだが、「居心地の良い場所」というキャッチコピーが適切か疑問が残る。

- よく言われるのは、ある人にとって居心地の良い場所は、だれにとっても居心地の良い場所とは限らないということだ。私にとって居心地の良い場所は、別の人にとっては居心地が悪い場所かもしれない。安心とはそういうものだ。
- シェルターは重要な「居場所」で、そういった場所をきちんと評価することが必要であると思う。そういったことを汲み上げるときに、ふさわしいキャッチコピーを考えてほしい。「あなたの居場所を教えてください」といったシンプルなものにしてしまっても良いだろう。
- ある人にとっては居心地が良い場所であっても、別の人から見たときには、何をやっているのか分からない、という場所であっても良い。
- おっしゃる通りだ。逆にそういった場所を汲み上げたい。
- 趣味の集まりであっても構わないが、大事なことは単なる趣味の集まりというだけでなく、社会的な意味のある集まりであってほしい。例えば高齢者と子どもたちのふれ合いがあるといったことがあると趣旨に合う。
- そういったところが自薦であれ他薦であれ、応募があったときには市で取材をするのか。
- ▼ 応募総数による。最初の段階では応募書類で審査をすることになると考えているが、これまでの応募数と同程度であれば、全ての応募に対してアプローチをかけていくことになる。
- 応募用紙に工夫が必要かもしれない。A4 一枚くらいの分量など、もうちょっと書けるようにしてほしい。対象となる場所と応募者の関係や、応募者はその場所でどういった時間を過ごしているのか、「居場所」であると考えられる理由など、選考の「やすが」になるようなものを応募者には作文していただけるような欄を作ってほしい。
- 場所・空間の種類や誰が来て、何をしているのかといったことは選考する際には知りたい。抽象的に概要を書いてもらうよりも、どんな空間で誰がどんな活動をしているのかが分かると選考する側が聞きたいことを聞けるのではないか。
- 事務局が大変になると思うが、別紙を付けても結構です、といった形で、PR できる人はしてもらった方が、選ぶ側は負担が少ない。
- 先ほどの意見は「わたしの」と言い切るという意味の提案でもあったと思う。「自分には行っていないけど、なんとなくあの場所は良いね」ではなく、「わたしにとってこの場所が居心地が良い」と言い切ってもらって選択もあるのではないか。
- 募集対象を「大和市内にある『わたしが』居心地が良い場所」とするのはどうか。
- そうすると、ここで言いたい「居場所」に近づいてくるような気がする。
- 自分では使っていないが、有名なから居場所として推薦するというのが、どうも面白くないと思った。
- パンフレットの表紙には、今の議論のことが書かれているのかなと思っているが、中面にあまり反映されていないように感じる。表紙には「わたしの居場所」と書かれている。
- 議論をしていくと「選考の視点」も気になる。
- 「居場所」としてテーマを設定すること自体が、結構なバイアスになっていると思う。単なる景観ではなく、そこに人の活動がある、人が接しているから「居場所」なのだろう。さらに「居場所」のレベルもいろいろあると思う。単なる趣味の集まりなのか、もう少し広がりがあるのか、そのレベルは選考の時にチェックすれば良い。だからあまりここで厳密にレベルを決める必要はないのではないか。

- 選考の視点は「②人の『つながり』が感じられるもの」と「③持続可能なもの」だけで良いのではないかと思う。「①憩いと安らぎを創出しているもの」はかなり場所を限定してしまうし、「④地域の魅力的な空間を創出しているもの」も、先ほどあったように、その人にとっては魅力的でも、ほかの人には違うかもしれない可能性を考えると、色々なバイアスがかかってしまい、景観的なイメージを想起しやすい言葉だと思う。むしろ②と③にもう少し説明を加えて書けばよいのではないか。
- ③の「持続可能」というのは大和市において定義されているのか、あるいは「持続可能＝SDGs」という理解で市民に対して発信しているのか。持続可能性というのは最近入ってきた言葉で、たくさんの軸がある中で社会・経済・環境という3つにまとめられると思うが、SDGsを浸透させる機会になるのではないかと思う。
- ▼ ここで持続可能と書かせていただいているのは、大和市で具体的に定義されているものではなく、今後も活動や場所が継続して存在していくようなものをイメージしている。
- わたしは逆に③がいらぬという意見を持っていて、ある特定の人頑張っていて、その人が倒れたら続かないような活動でも良いような気がしている。その瞬間は居場所になっていて、それがほかの人の参考になるような取り組みであれば良いという考えもある。持続可能性をどう評価するかの問題で、過去10年間継続していたというのも持続可能性だし、将来にわたって活動の拠点になるような空間の家賃を誰が払うのかといったといった持続可能性もある。「この人が倒れたら続かない」というのを持続可能性がないとしてしまうのが良いのかどうか、といったことまで考え始めるときりがない。
- ▼ 都市計画マスタープランでの定義に沿って言えば、街に人が少なくなってきて寂れてしまうという流れに対して、街として将来にわたって今の状況を維持していくという意味で持続可能という言葉を使っている。具体的に「居場所」の持続可能性を考えたときに、言葉の使い方として適切かどうかは改めて検討すべきだと感じる。
- 地域の方たちがたくさん関わって持続していきそうだと感じられれば、選考の際にポイントが高くなるという考え方で良いのではないか。選考の視点を全て満たさないといけないわけではない。
- ▼ なかなか活動が続かないというのが前提という感覚もあるが、その活動を続けるための努力しているところが見て取れることが必要かもしれない。
- せっかくここで書くのであれば、持続可能とはこういうことだ、という議論をするきっかけや問題提起になれば良いのではないか。④については、新たに書かなくても①～③に含まれていると見ることもできる。あえて④を入れることでハードの方向に引っ張られる恐れもある。
- 都市計画マスタープランの36ページにある「目指す都市」の文章が今回の募集の参考になるのではないか。わたしは持続可能なことがとても大事だと思っているから外すべきではないと考えている。ただ、持続可能とは、その組織を同じように維持するだけを意味するわけではない。大和市として、持続可能な発展ということを理念の中でうたっているし、時代に応じたありようを考えていくということを暗に言っているのだろうと思う。今回の街づくり賞では「人と人、人と都市空間の関係性を総じて『居場所』と捉え」という言葉も都市計画マスタープランにそのままあることも踏まえ、こうしたことをパンフレットの枕にしたうえで、21回目の今回は「居場所」をテーマとして募集する、そして大和市が考える持続可能性は同じ組織が同じように連綿と続いていくだけではなく、時代に応じた大和らしい活動や居場所のあり方をつなげていくことだとしていけば良いと思う。だから、この言葉は外せないのではないかと考えている。
- 選考の視点の4つについて、どれかを外す強い理由はなさそうだが、「これは入れた方が良い」というものはあるか。
- ④はいらぬのではないかと思う。この視点があると、空間やハードの魅力に偏りそう。

- ハードがだめということではなくて、客観的に外観が良ければそこに人が集まって、そこに行きたい人が増えることもある。
- ①と④を合わせて一つで良いのではないかと思っている。
- 人のつながりが感じられるような場というのが、地域の魅力的な場所ではないかと思う。だから②を満たしていれば④も満たすのではないか。場という言葉が良いのか、場所と言った方が良いのかは分からないが、活動も含まれることも考えて、この会議で選考の際に判断すれば良い。あとは、優劣をつけるというよりも、他の地域のモデルになるとか、波及するとか、そういったものが街づくり賞の趣旨には合致するとは思いますが、選考の視点を満たしていればどの場所も素敵な居場所と言えると思う。
- この1年ほど、コロナ禍によりなかなか対面で人に会うことができないが、ネット空間で会うということがある。そういったネットの空間も居場所として表彰の対象になるのか。
- それは選考の場で考えることになるだろう。積極的に対象に明記をするわけではないが、今までの実空間の対話コミュニティを超えるような場について応募があった場合には、その時に議論をする、くらいのイメージだ。あえて外すと外さないとか書く必要はないと思う。
- つながりを感じる場であれば良いのではないか。
- つながりを感じるかどうかの判断をすることになるだろう。
- ▼ あとは大和らしさがある方が望ましいと考えているが、ネットだと大和らしさが伝わりにくいかもしれない。大和市民同士がつながっていれば良いという考え方もあると思うが、市民活動ではなく、「街づくり」として考えたときには違和感があるかもしれない。
- いろいろな場が応募される可能性を残しておくことが、募集する意味だろう。こちらの想定していないものが応募されてきて、むしろコロナ禍だからできた居場所もあるかもしれない。
- ▼ 街づくりに関するテーマを持ったネットの中の集まりであれば良いかもしれない。
- 例えば、街の飲食店が困っているから、それを応援するといったような取り組みや、飲食店で知恵を絞った発信をするといったことであれば対象としてあり得なくはない。
- 大和市内のことが話題の中心になっている Facebook のグループなども実際にある。
- 募集対象にある具体例は、募集する側に寄った考えで限定的なものだから、パンフレットに掲載するのは不要なのではないか。似たようなものだけが並んでいる印象だ。
- ▼ 単に居場所と言われても、何を応募したらよいかイメージが付きにくいと考え、記載した。しかしこの記載によって、応募者が囚われてしまう可能性もあるかもしれない。
- 限定してしまうかもしれないが、これをヒントにすることもあり得る。何も書かないと分かりにくいという考えも理解できる。例だということをはっきりとさせたら良いのではないか。
- 景色が良いとか自然を感じるといったことは、ちょっと違うかもしれない。「世代を超えて人が集まる場」など活動が見える表現が適切ではないか。
- ここに書かれている例だと、「居場所」がサブ的になって、「居心地が良い大賞」になってしまっている。
- 公園や公共施設だけではなく、身近で開かれている場所にただ単に仲間が集まっているだけではなく、コロナ禍によりつながりが分断されているところで、人と人とのつながりを育むような活動がなされている場であり、広がりがある場を募集しているということを表現することが大事だ。具体的な募集対象の例を書くことによって対象を狭めてしまうことは避けたい。そうであれば、何も書かずに受け手の解釈に任せるということもあるだろう。



- オンラインを入れるかどうかの延長線上にある話で、これまで外国人の方から応募はあったか。
- ▼ おそらくなかったはずだ。
- これからの方向性として、積極的に外国人の方からの応募や異文化交流活動の応募を促すことは考えているか。それとも大和市に住んでいる外国人の方は、社会に溶け込んでいると考え、特に強く働きかけることはしない予定か。今後、外国人の方の人口が増えることが予想されるのであれば、異文化交流のちょっとしたきっかけとして、うまく活用できる可能性があるのではないか。
- いちよう団地の方には多くの外国人の方が住んでおり、多文化共生の先進地区なのだから、積極的な働きかけもしていくと良いのではないか。
- ▼ 大和市は比較的、外国人の方が多い。国際化協会などもあり、外国人の方との交流というのも、「居場所」や「居心地の良い場所」という観点からは事例になりうると考えている。
- 最初の話に戻ってしまうが、やみくもに開くのではなく、安全・安心を担保するような「居場所」と、越境することで普段は出会わない人と出会う「居場所」の2つの方向がある。それを例示しなくても、「自分にとって」ということが書かれていれば、自分が安心して行けるところであり、そこに行くとう違う文化を持った人や普段は接点がない人と出会うということがあるだろう。だから『私の』居場所の判断に任せれば良いということだ。
- できるだけ障がい者の方や外国人の方などの社会的マイノリティの方に応募していただく機会を積極的に作ることによって、「居場所」の本質が探れるだろう。社会的マイノリティの方にチラシを配布するなど、応募の働きかけをしていくと良い。
- 「広報やまと」はそういった方々にも配布しているのか。
- 配布はされているが、なかなか読めないという方もいる。だから国際化協会の方が協力してくれている。それでも手が足りず、学校から配布される書類も読めないから書けないと聞いている。そのコミュニティとつながりがあれば別だが、お知らせがどのように伝わるかということまで配慮しないとなかなか難しいので、工夫が必要だ。いろいろな方が大和市に住んでいるということが伝わると良い。
- ▼ 国際化協会に対しては、これまで街づくり賞の案内をしていなかったが、今回からお知らせしていくことを検討する。
- 募集期間が長いと、そういったところにアウトリーチしていくのも良いだろう。
- ▼ 落としどころがなく、頂いた意見を踏まえて、もう一度くらい議論しても良いかもしれない。チラシを配る前段階で議論することも一つの方法だろう。また、冒頭にあったようにメールのやり取りでも良いかと考えている。
- 具体的な話としては、選考の視点の④は不要なのではないかということ、具体例を掲載するかどうかということ、誰でも応募用紙を書けるようにどんな場所かを記載できるようなものとした方が良いのではないかと、ということがあった。
- ▼ テーマはこれで良いか。
- マイノリティの方は意外と居心地の良い場所が自分の住んでいる地域にない場合が多い。住んでいる地域だと周りの人たちが気になって、2 駅先に行っていたりする。大和市にあれば良くて、住んでいる地域である必要はない。だから、地域でなくても、「私の」とするのが良いのではないか。
- ▼ 「街中の」ではなく「私の」「居場所」ということか。
- そうだ。
- 今日の話を受けて、まだ温かいうちに募集要項等をメールで流してもらい、それをもう一度、委員が見てメールで意見を言う機会を持ったらどうか。その意見は全員が見られるような形にしてほしい。

- 年内に重たい議題がなければ、わざわざ集まる必要はないので、メールで良いだろう。
- まだ熱いうち、早めにまず一度、募集要項を見たい。
- ▼ 承知した。
- 事務局には今日の議論を踏まえて、修正をしてほしい。その上で、メールで意見を示してもらい、ちょっと整理がつきそうになれば1月中にどこかで会議を設定するという事で良いだろう。
- ▼ 10月より「広報やまと」が月に一度の発行になっている。その代わりに「やまとニュース」というものを、全戸に配布している。「広報やまと」より「やまとニュース」の方が読まれる数が多いのではないかと考えている。この「やまとニュース」も活用していくことを検討したい。
- 効果的な方法を工夫してほしい。

## (2)屋外広告物に関する事項について

事務局より、「屋外広告物に関する事項について」を説明

質疑応答(○・・・委員 ▼・・・市)

- 
- 前回の議論を踏まえて、事務局として今後どう対応をしていくかという報告だったかと思う。1点目の除却協力員制度については、指摘された点を現実的にどう変えていくかはもう少し探っていきたいということだ。2点目について、規制の制度を理解するためには、パッと出されてパッと理解するのも難しいので、じっくり資料を整えて説明してほしいと要望した。その経緯もあって、次回以降の議論ということになっている。今の段階で質問はあるか。
  - 2つある。1つは除却協力員の人集めをするために、大和市に在住・在勤・在学という形で関わっていることと、成人という2つの要件を求めているが、それで大丈夫なのか、ということだ。2つ目は、最近はどういった取り組みは個人ではなくて、団体とつながる傾向があると思うが、団体とつながることのメリット・デメリットを教えてください。回答は今すぐでなくて構わない。
  - 2点目は、それも含めて検討するという事なので、団体も選択肢に入れて検討するという事だ。事務局は今のことも含めて検討してほしい。
  - ▼ 1つ目は、人集めをするのに、大和市に関わりを持っている必要があるか、ということか。
  - 必要があるかというよりも、人が足りるのかということだ。団体とつながれば足りる可能性があるが、どこでも人材を奪い合っている中で、大和に関心がある人であれば良いとするということや、除却協力員制度をどうしていくのかということとつながるが、人が足りるのだろうかということだ。
  - ▼ そのあたりは、制度自体をどうしていくかだ。今までは義務的にやっていただくといった感じだった。自治会の清掃活動の中で、違反屋外広告物があっても違反とはいえ個人の持ち物であり除却ができず、除却協力員として登録されている方でないと除却ができない。こういった経緯があるため、これまでは各自治会から代表で何人か出してほしいとお願いをして登録してもらっていた。今後、義務的に除却活動をしてもらうかどうかという部分も踏まえて、登録者を増やしていくかどうかを考える必要がある。やはり高齢の協力員が増えており、若い人のなり手がいない。だから、在学要件を追加して市内の学校などに投げかけもできるようにした。学校周辺の清掃活動の中などで電柱などに張り紙がある場合、今のままでは剥がせないの、協力員に登録して除却することができるようになるということだ。今後の取り組み具合で増やすか増やさないかは決まってくると思っている。こちらとしては、なり手のボランティア待ちの状態だ。そうなってくると、景観などに関心があり、また時間に比較的余裕がある高齢の方が中心になってしまう。

### 3. その他

・ウェブ会議システムを利用した会議の開催について

事務局より「街づくり推進会議のウェブ会議システム利用に関する事項について」を説明

質疑応答(○…委員 ▼…市)

- 
- 大和市は要領を定めなければウェブ会議を開催できないが、定めればできるということなので、やっとこれで第6波を迎える準備ができた。気になるのは、Webex という普段使い慣れていないシステムになるため、事務局には丁寧にフォローしてもらいたい。また、機器の扱いが不安である場合には、会場に来て会議に参加することもできるよう、事務局には配慮を求めたい。
  - Webex は無料で使えるものか。
  - ▼ ブラウザ形式でもアプリ形式でも、どちらでも利用できる。
  - ウェブ会議システムを使った市の会議の開催実績はあるのか。
  - ▼ 「大和市市民参加推進・評価会議」で実施したことがある。
  - ▼ 部内では初めてである。都市計画審議会や開発審査会、建築審査会等、個人情報が多いので開催したことはない。
  - 緊急事態宣言が出ていなくても、不安だという委員もいるので、柔軟に対応してほしい。また、音声もただマイクをつなげば良いわけではないので、準備も委員の皆さんにはご協力をお願いしたい。
  - タブレットやスマートフォンで参加もできる。議論をするためには、事前に資料郵送というアナログと、デジタルをうまく組み合わせてほしい。
  - 要領はこれで承認ということよろしいか。

<異議なし>

### 4. 閉会

以上